

令和4年度 第1回壬生町総合教育会議 議事録

1 日 時 令和4年11月24日(木) 午前10時30分から

2 場 所 壬生町役場 大会議室

3 出席者 町 長 小菅 一弥
教育長 田村 幸一
委 員 藍田 收
委 員 大久保 信男
委 員 宇賀神 真佐江
委 員 廣田 香織

4 出席者及び傍聴人を除くほか、会議に出席した者の氏名

副町長 櫻井 康雄
総務部長 糸川 延夫
総務課長 佐々木 正裕
総合政策課長 大垣 勲
教育次長 池田 茂
学校教育課長 中村 文恵
生涯学習課長 増田 利幸
学校教育課課長補佐兼指導主事 高橋 唯拓
学校教育課課長補佐兼指導主事 森 弥生
学校教育課副主幹兼指導主事 稲木 健太郎
生涯学習課課長補佐兼係長 布施 香代子
学校教育課課長補佐兼学校教育係長 福田 健治
学校教育課主幹兼庶務係長 堀 靖久

5 傍聴人 なし

6 協議事項

- (1) ゆうがお English イノベーションスクール事業の進捗状況について
- (2) 第18回全国藩校サミット壬生大会開催記念「壬生藩校学習館祭り」について

7 その他

8 議 事

【開会】(午前10時30分)

教 育 次 長： ただいまから、令和4年度第1回壬生町総合教育会議を開会いたします。
初めに、小菅町長よりあいさつをお願いします。

町 長： 皆様こんにちは。本日はお忙しい中、当会議に御出席いただきまして

ありがとうございます。開会にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昨年度の会議では、壬生町におけるオンライン授業の成果と課題とゆうがお English イノベーションスクール事業について協議をいただきました。町と教育員会が共通理解を図りながら様々な事業の実施ができたことと考えております。

今回の協議事項の一つ目は、昨年総合教育会議でご協議いただきましたゆうがお English イノベーションスクール事業の進捗状況についてでございます。今年度の新規事業ということで委員の皆様には貴重なご意見をいただきました。その中で大変ご心配をいただきました財源につきましても論語・ICT・英語の3つを柱とした壬生町の子供たちへの教育理念に賛同していただいた株式会社タカラトミー様と株式会社アクトリー様より多額の支援をいただきまして実施にこぎつけることができました。

2つ目は昨年度開催しました第18回全国藩校サミット壬生大会開催の記念事業である壬生藩校学習館祭りの開催についてでございます。実施途中の事業でもありますが、進捗状況などを確認したうえで忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願い申しあげて私からの挨拶とさせていただきます。

限られた時間ではありますがどうぞよろしく願いいたします。

教育次長： ありがとうございます。それでは、会議に入りたいと思います。会議の進行は運営要綱第5条により町長が議長となりますので、進行をお願いいたします。また、この会議は、原則公開、また議事録も作成いたしますので、発言をする際には挙手をしてから、発言していただきますようお願いいたします。それでは町長お願いします。

町長： それでは、会議を始めさせていただきます。まず、協議事項(1)の「ゆうがお English イノベーションスクール事業の進捗状況について」を、森指導主事より説明をお願いします。

森指導主事： 資料及び画像により「ゆうがお English イノベーションスクール事業の進捗状況について」を説明。

町長： ただ今、森指導主事より説明がございました。オンラインを活用した英会話、海外体験語学研修、ネット学習教材によるさぐり学習、そして新たに英検受験料の全額補助です。オンラインを活用した取り組みについては2年目になりますのでスムーズに活用できていると理解しました。英語検定も反響が高いようです。

委員の皆様からご質問・ご意見がございましたら、挙手にてお願いいたします。

藍田委員： 本事業については順調な船出をしたのかなという印象を受けました。その中で、英語検定についていくつかお聞きしたいと思います。英語検定については英語力を評価するうえで貴重ですし、英語力を伸ばす上でも大きな意味があると思います。ただ英検の検定料は他の検定料と比べ高いという印象を持っています。それを本町では中学生から全額補助していただいているということで非常に素晴らしいことだと思っていますが、現在小学生でも高学年で英語の授業が始まっています。全国的にみると小学生でも英語検定を受けている子供もいるようです。本町でも英語検定の受験について、小学生まで拡張して事業を実施できないか検討していただきたいと思っています。

あと一つ、年3回英語検定が受けられるようですが、検定が通らない生徒もいます。そういう場合再度チャレンジできるのか、あるいは年1回しか受けることはできないのか、その辺を説明していただければありがたいと思います。

町長： 藍田委員から英検について具体的な進み具合なのか、また、改善点もあるのではないかとありますが担当から答弁をお願いします。

池田次長： 1点目の小学生まで門戸を広げることにについてですが、当初新規事業ということで小学校高学年まで対象にしたらどうかという議論も行われましたが、初年度ということでまずは中学生を対象に事業を実施することとしました。

森指導主事： 2点目についてですが、委員おっしゃる通り年3回受験の機会があります。複数回受験することは可能ですが、町の補助を活用しての受験は年1回だけとなります。

藍田委員： 小学生の英語教育は令和2年から始まって、既に3年経過しています。本事業は今年度から始まっていますが、速やかに小学生まで門戸を広げていただくとありがたいと思います。

町長： この事業については次長からの答弁にあったように令和4年度はまずは中学生を対象に実施をする、そして令和5年度以降、皆様のご意見を参考に、協議をしながら決定をしていきたいと思っています

大久保委員： オンライン英会話について、6月から始まって生徒たちが前向きに取り組んでいるのがわかりました。その中でまだ半年しかたっていないので成果は検証してないと思いますが、来年に向けてこの事業を継続できたら良いと思います。なかなか英語に興味を持って取り組めない子供もいると思いますが、そういった子供へのフォローが必要ではないかと思っています。こ

の事業を通して子供たちが将来外国に興味を持って行きたいと思ってもらえればと思います。

町 長： 事業自体は非常に良いが、それについていけない子供がいるのではないかとありますが、まずは他の委員さんのご意見もお聞きしたいと思います。宇賀神委員さん、何かご意見等ございますか。

宇賀神委員： 感想になってしまうのですが、ネイティブなイングリッシュを5人のグループで学べるということで行き届きやすい学習ができていると感じました。生徒からは英語が得意になったという声もあるので着実な学びに繋がっていると思います。

英検も壬生町が会場に受験できるということで身近になり喜ばしいことと思います。英語で伝えられなかったことを次に生かすという更に学ぼうとする姿勢も生徒から聞いて今後も楽しく英語を学んでいただけたらと思います。

町 長： 英検の開催が町内でとりましたが、森指導主事から補足していただけますか。

森指導主事： 町教育委員会が団体責任者として実施していますので会場を城址公園ホールとしましたので町内の生徒は受験しやすい会場となったと思います。

町 長： 町内が会場で受験しやすいということが先ほどの藍田委員の小学生まで広げるといことにつながってくると思います。廣田委員さん、何かご意見等ございますか。

廣田委員： オンライン海外体験語学研修ですが、今年は8月15日から19日ということですが、来年も同様な日程となるのでしょうか。ちょうどお盆の期間と重なっているので参加したくてもできない子もいるのではと感じました。それとオンライン海外体験語学研修の感想が載っていますが、プラスのことばかりではなく改善点やマイナスに捉えた感想も知りたいなと感じました。

町 長： お盆の期間の実施はどうかという意見がありました。森指導主事いかがですか。

森指導主事： お盆の期間ではありますが対象が中学生ということで部活の関係であえてお盆期間で設定しました。

町 長： お盆の捉え方の違いで、学校の行事を踏まえての設定ということですが、田舎の方は家のしきたりでお盆優先なのでそこら辺を踏まえ今後日程を検討していただければと思います。それともう1点、良いことばかり

ではなく改善点もあれば実りあるものになるのではという指摘ですが、森指導主事いかがですか。

森指導主事： プラスだけではなくマイナスのご意見もいただいているのですが、今回は比較的プラスのご意見が多かったです。一部欠席している方もいらっしゃったので全日程参加するのが難しく残念だった、講師が何言ってるのかわからなくて詰まってしまったという意見もありました。

町長： プラスの意見が多かったということですが、廣田委員、生の声や反響があればご披露いただけますか。

廣田委員： 自分の子供は英語に対して消極的な部分があり、こういう事業があるということは知っていたけれども、親である自分でも内容をよく把握していませんでした。なので、まだ事業が浸透してないこともありまずは子供にもですが、親に発信した方がいいのではないかと思います。

町長： あまり事業内容がわからないので親への周知も必要なのではないかと
いうご意見ですが、次長どうですか。

教育次長： 保護者の皆様へもっと周知をとということですが、次年度以降にはなりますがもっとネットを活用した保護者への周知をできればと思います。

町長： ネットを活用し保護者への周知を考えているということで今後の取り組みに期待したいと思います。

その他、皆様方から何かございますでしょうか。

藍田委員： 英語力は小さい時から身に付けることが肝心だと思いますのでそういう流れの中で事業を実施していただくとありがたいと思います。英検は検定なので受かる・受からないというのがありますが、受からなかった子供が次の検定にチャレンジしたいという時は補助をしてもいいのかなという感じはしますが。

町長： 大垣課長いかがですか。

大垣課長： 企業版ふるさと納税を原資として事業を行うとなると回数を増やす等規模を広げるのはどうしても財源的に制限されてしまいますし、また事務局側の負担というのもありますので、様々な点を考慮し可能な範囲で委員様方の意見を反映できるよう努めたいと思います。

町長： 企業版ふるさと納税の話がありましたが、副町長いかがですか。

副町長： 企業版ふるさと納税を活用しているのが本事業の一番の特徴で、将来の壬生の子供たちを育てるとい、企業にとってもプラスになるという趣旨に賛同して協力いただいておりますので、事業の成果を企業へアピールしつつ、今回の2社に限らず様々な企業様に協力を求めていきたいと考え

ています。

企業と一緒に事業を行うというところに意味があるわけで、壬生に関係する企業にとっても将来の国際的な人材は必要ですので、企業の活動自体がグローバルな視点や能力がないと成り立たない時代となっていますので、町としてその点をアピールしながらさらに継続なり拡大をお願いし進めていきたいと思えます。

町 長： 副町長から企業版ふるさと納税の説明がありましたが、今年はお出しけど来年は出さないということがあると困ってしまうので、継続的に協力してもらうためにこういった会議の様子などから企業へのアプローチもしっかりしていかなければと考えてます。

続きまして、(2) 第18回全国藩校サミット壬生大会開催記念「壬生藩校学習館祭り」について増田生涯学習課長より説明をお願いします。

増田課長： 資料及び画像により(2) 第18回全国藩校サミット 壬生大会開催記念「壬生藩校学習館祭り」を説明。

町 長： 作文の発表と論語の朗読は藩校サミットでも来場者から好評でありました。今回新たにプレゼンが行われましたが、学年に関係なく資料や発表の仕方にレベルの高さを感じました。子供たちが日頃の学習を発表する場として学習館祭りは最適ではないかと感じています。改めて委員の皆様には率直なご意見をいただければと思います。

藍田委員： 昨年の藩校サミットのレガシーとして学習館祭りを企画していただいて大成功を収めたと思っています。論語教育の延長として藩校サミットを実施しましたが、今年度新たな取り組みとして実施しましたが、今後学習館祭りを内容も含めこれからどのように継続していくのかお聞きしたいと思えます。

町 長： 今後の方向性ということですが、まずは順次ご意見を伺いたいと思えます。

大久保委員： 子供たちが発表の場があるということはとても良いことだと思います。特に論語を通しての成果というか、論語を実体験として表すのは良いことだと思います。今回小学生の部は4年生が主体となってしまいましたが、できれば低学年、高学年等色々な子供に発表の場があると良いのかなと思えます。壬生町の色々な良いところを知るうえでも必要なのかなと思えますので是非今後も続けてほしいと思えます。

宇賀神委員： 論語はただ覚えるということだけではなく、その意味に対しても考えるということは良い取り組みだと思います。プレゼンもパワーポイントの

作り方等上手だなというところで、楽しく発表している姿に私自身も楽しく学ぶことができた良い機会だったと思います。壬生町全体で発表できる機会があるというのは子供たちにとっても良いことだと感じています。

廣田委員： 私も宇賀神委員と同じ意見になりますが、覚えるだけでなく、その意味を自分で調べて自分の生活と自分の中で思ったことを照らし合わせて文字にするというのはとてもすごいなと思いました。自分が一番好きな論語はこれですと一人ひとり言えるようになると良いのかなと思います。プレゼンに関しても人数に関わらず上手に発表できていたので来年以降も続けてほしいと思いました。

町長： 今後どのように継続していくのが皆さん気になっているところと思います。

増田課長： 学習館祭りの今後ですが、今年は初年度ということで手探りでやらせていただいたところがございます。今年の反省を踏まえ来年度以降藩校教育・論語教育に関する発表の場として学習館祭りを続けていくという方向で考えております。内容につきまして例えば5回目の記念大会として大朗誦のような形を行う等プランは色々考えてますので今後検討していきたいと考えております。

町長： 今後、続けていく中で記念大会のような目標を作って磨きをかけていくとのことです。

あれだけの発表となると学校の先生方も相当苦労があったと思いますが、そこについては何か聞いてますか。

稲木指導主事： 事前の段階で、学校で打ち合わせや練習する部分で問い合わせがありました。例えば会場の設備や配置であったり流れについて、学校でどの段階で指導をするのかということが今後の課題になるかと思います。内容に関しては去年より幅が増えているので負担はかなり減っているが、発表に関しては指導が必要だという声が上がっています。

町長： 先ほど廣田委員からマイ論語みたいな、自分が好きな論語はこれだというのを持たせた方が良いのではという意見がありましたが、私も同感です。小学校低学年のうちは意味も分からずただ暗記しているだけだと思いますが、成長するに従ってその論語の意味がどこかで知りたくなる。それが今後の人生の中でふとした瞬間に蘇ってくることもあるので、そういったことも今後の教育に取り入れても良いかなと思います。

教育長： マイ論語が作文のタイトルになってる気がします。各々が今の自分の生活に照らし合わせて一番これがというものが発表のテーマになっている

と思うので、これが大人になるにつれ段々それが変化していき、中学生になると18章句以外の中から論語が出てくるので古義抄を読んでくれているのかなということと、その中から新たなマイ論語を探しているのかなという気がして非常に嬉しく思います。

町長： それでは以上で協議を終了します。司会を事務局に戻します。

教育次長： 町長、円滑な議事進行ありがとうございました。ここで、協議内容以外になにかございましたら、お願いしたいと思いますが、何かございますでしょうか。

それでは、ないようでございますので、以上をもちまして、令和4年度第1回壬生町総合教育会議を閉会いたします。お忙しいところありがとうございました。

【閉会】(午後12時7分)